



NEWS

2012 No.252

3月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

NGPのリユース部品に業界初の「ベルマーク」 修理に使って集めてもらって 教育設備の充実や被災地支援に貢献 お客様とのコミュニケーションツールになります



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合はベルマーク運動に協賛

リサイクル部品業界で初めてNGPのリユース部品にベルマークをつけて販売を始めます。

NGPが取り組む社会貢献活動の一環です。ベルマークをお客様との絆づくりにお役立て下さい。



ベルマーク運動への協賛を発表する長谷川理事長以下NGP協同組合役員

ベルマークを小学生の時に集めたことがあるとか、今、小学生の子どもや孫が集めているという方は多いと思います。学校ごとにまとめて、ベルマーク運動を推進する公益財団法人「ベルマーク教育助成財団」に送ると、運動具や楽器その他、必要な教育設備や物品を購入できる仕組みになっています。

マヨネーズなどの食品、ノートや鉛筆といった文具にベルマークはついていますが、それに加えて業界で初めて自動車修理に使うリユース部品にベルマークがつくことになりました。ただし、ついてはリユース部品はNGPのリユース部品だけです。ベルマーク運動に協賛する協賛会社は現在63社で、そのひとつにNGP日本自動車リサイクル事業協同組合が加わりました。

具体的には4月から、NGP協同組合が

リユース部品に添付している品質保証シール（ギャランティーシール）に5点のベルマークをつけることになります。ギャランティーシールについているベルマークを切り抜き、学校などにもって行き、ベルマーク運動にご協力ください。

2006年からベルマーク運動に大学や公民館の参加が認められるようになりました。幼稚園・保育園、小学校、中学校、高校から大学、公民館まで運動に参加

している団体は2011年末で2万8336団体。こうした団体の教育設備・物品購入に役立ちます。

もちろんギャランティーシールについているベルマークは、リユース部品で自動車を修理したお客様にお渡しいただいて結構です。お渡しいただくことで、リユース部品に品質保証があること、ベルマークをつけて社会貢献になっていることをお客様に伝えていただければ、リユース部品をもっと使っていただけるのではないのでしょうか。お客様とのちょっとしたコミュニケーションツールにベルマークがついたNGPのリサイクル部品を使っていただければ幸いです。

ところでベルマークが教育設備の購入に役立つだけでなく、東日本大震災の被災地支援につながっていることをご存知ですか。ベルマーク教育助成財団は、支援のために

ベルマークの寄贈を受け付けています。また、学校などがベルマークで購入した教育設備・物品の購入金額の1割が、NGP協同組合など協力会社から学校に戻されて財団に寄付される仕組みになっています。この寄付金を使って財団はへき地学校や養護学校などの特別支援学校への設備援助、途上国の教育支援に役立てています。

2011年度は東日本大震災直後ということで、財団は被災校支援を重点的に取り組んでいるそうです。被災した257の小・中、特別支援学校に対して総額1億3000万円相当の「被災校援助プロジェクト」を実施しました。財団では2012年度も同規模の被災地支援を行うことを計画しているそうです。



シール下部のベルマークに注目

ベルマーク運動であいおいニッセイ同和損保と連携

共同利用回収ボックスの店頭設置でご協力を！



ペーパークラフトの回収ボックス
実在する高校の校舎がモデルになっている

NGP協同組合がベルマーク運動に協賛したきっかけは、東日本大震災の被災地に被災車両回収支援活動に向いた時、あいおいニッセイ同和損害保険の「たすけ愛・支えあいプロジェクト・被災地に届けみんな

のベルマーク支援活動」を知ったことです。被災地学校の復興支援や子供たちの未来のために継続的な支援活動になることからNGP協同組合も参画したいと相談し、ベルマーク教育助成財団を紹介していただきました。

あいおいニッセイ同和損保はすでに協賛会社としてベルマーク運動を展開、ベルマーク回収ボックスを製作し、同社の自動車整備工場代理店の皆様に「ベルマークサポーター」として協力を呼びかけています。この運動にNGP協同組合も賛同し、回収ボックスを共同利用させていただくことになりました。

「NGPエコひろば」に登録された自動車整備工場のお客様、NGPのリユース部品を利用していただいている「NGPリサイクル部品活用推進店」のお客様など、NGP

協同組合員各社と取引のあるお客様の皆様にベルマークの共同利用回収ボックスの店頭設置と回収への協力をお願いしたいと考えております。

ベルマークの1点は1円です。皆様の店頭で集まったベルマークを「たすけ愛・支えあいプロジェクト」に寄付していただいてもかまいませんし、直接、ベルマーク教育助成財団に送っていただいてもかまいません。財団は震災寄贈マークの受付を継続実施しているそうです。

また東日本大震災の被災地、あるいは昨年の豪雨被災地の地元にある整備工場のお客様ならば自社で集めたベルマークを地元の保育園、小学校や中学校に寄贈するのはいかがでしょうか。地域社会との交流にもつながります。

絆づくりへの参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2030年の電気自動車(EV)世界市場は1374万台

電池のコストダウン実現で市場規模拡大

2030年のEV世界市場は1374万台一、こんな市場調査が発表されました。総合マーケティングビジネスを展開する富士経済(中央区日本橋)が、EVはじめハイブリッド車(HV)、プラグインハイブリッド(PHV)に関する国内11社、海外13社の主要自動車メーカーの車両投入計画や研究開発の動向を整理、長期展望を「2012年版HEV、EV関連市場徹底分析調査」としてまとめたものです。

2030年の市場規模は、HVは2012年見通しの8.6倍の1187万台、PHVは同206.8倍の1034万台。EVは196.3倍の1374万台との長期市場見通しをしています。

HVは次世代カーとして当面市場が順調に拡大していくものの、現在HVをエコカーの主軸に位置付けている自動車メーカーが開発の中心をPHVに置きだすようになること、さらにHV自体の技術的限界や陳腐化も手伝って、次世代カーの主役を明け渡すようになるとしています。

またPHVは2015年ごろから本格的

生産が始まり、HVとEVの中間的存在ながら長距離運転を必要とする地域では次世代カーの主役になるそうです。そしてPHVの市場拡大がリチウムイオン電池のコストダウンを進め、EV普及に弾みがつくと見えます。2025年ごろの電池性能の技術革新で、2030年にはHV、PHVを上回る市場規模となるそうです。

エコカーの2012年と2030年の世界市場見通し(富士経済)

	2012年予測	2030年予測
ハイブリッド車(HV)	138万台	1187万台
プラグインハイブリッド車(PHV)	5万台	1034万台
電気自動車(EV)	7万台	1374万台

NGP 今月のCO2削減量

リサイクル部品利用にともなう削減効果



NGP 平成24年1月:

6,538 t

NGP 1月からの累計:

6,538 t

(全12団体 1月からの累計)
11,885 t

リターナブル梱包材利用にともなう削減効果



NGP 平成24年1月:

20.4 t

NGP 1月からの累計:

20.4 t

※ NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

※リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出削減の取り組みです。ダンボールに変えて、専用梱包材を200回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。

※リターナブル梱包材は、ドア・フェンダー用に加えて2011年2月よりバンパー用の運用を開始しました。

増加している高齢者の交通事故

運転操作ミスより主要な事故原因は 年齢を問わず不注意ミス

日本が本格的な高齢者社会に突入し、高齢者の交通事故増加が社会問題になっています。加齢に伴って反応が遅れることや運転操作のミスをするのが事故を起こす原因と思われるがちですが、事故を起こしてしまう主要な原因は老いも若きもそれほど変わらないようです。



人口構成で高齢者が増えた分、高齢者の交通事故は増加している

先に公益社団法人「日本交通政策研究会」が主催した交通事故シンポジウムが都内で開かれました。そこで示されたデータなどをみますと、必ずしも加齢が原因で老人が事故を起こしているとは言えないのです。

高齢者の交通事故はなるほど深刻な事態になっています。警察庁がまとめた交通安全白書（平成23年版）では、平成22年の交通事故死者数を年齢別にみると、交通事故死者4863人のうち65歳以上の高齢者は2450人で、交通事故の2人に1人が高齢者となり、2割程度の欧米諸国と比べて高齢者の交通事故が深刻な事態になっていると指摘されています。また、高齢者は交通事故の被害者となるばかりでなく、高齢運転者が増え、被害者、加害者の両面で高齢者の交通事故が社会問題化しているのです。

高齢運転者による交通事故の特徴は、出会い頭の事故、車両単独事故、信号無視さらには運転操作ミスによる事故が多いと特徴づけられます。とくに加齢による操作ミスによる事故が多いように思われていますが、事故を起こした運転者について事故の人的要因を分析すると、操作ミスが突出して多いわけではないようです。

科学警察研究所が示したデータでは、人身事故で運転者による操作ミスが原因とするものは全年齢層で7.0%。これを年齢別にみると、①25～34歳6.7%、②45～

55歳6.3%、③65～74歳7.1%、④75～84歳9.4%、となります。なるほど加齢とともに操作ミスによる事故は増えていますが、それが最大の要因というわけはありません。

事故を起こす最大の要因は認知ミスです。全年齢層で76.8%、年齢層別ではそれぞれ①75.2%、②78.1%、③78.6%、④76.3%、となります。ちなみに判断ミスは全年齢層で人的要因の16.6%、年齢層別では①18.3%、②16.1%、③14.6%、④14.5%、です。経験が未熟な分、若い人の方が若干甘い判断をし、事故につながるということなのでしょう。

また、独立行政法人「自動車事故対策機構」からは違反別交通事故件数の分析デー

タが示されました。交通事故を起こす3大違反要因は全運転者で、「安全不確認」がトップとなる31.8%、「脇見運転」が16.5%で要因の第2位、そして「動静不注意」が第3位で10.8%となるそうです。

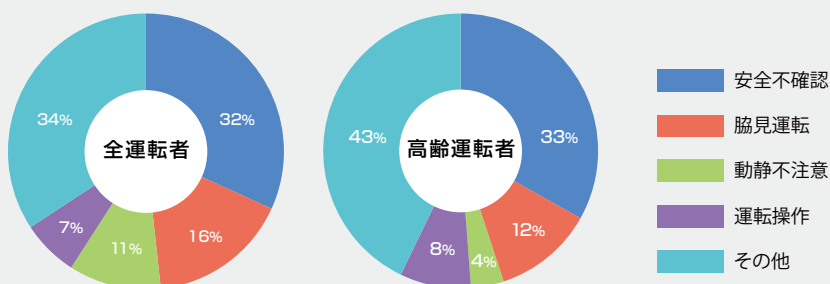
これを70歳以上の高齢運転者で見ますと、トップの要因は全運転者と同じ「安全不確認」で33.1%、2位の要因も同じように「脇見運転」で11.8%となります。第3位の要因で「運転操作」が登場するのですが、そのウエートは8.4%に過ぎません。全運転者の事故を起こした際の違反要因でも「運転操作」は6.6%で、「漫然運転」に次ぐ5番目の要因となっています。

高齢運転者は「操作ミスをしがち」という先入観がありますが、こうした分析データを見ると、高齢者の交通事故要因として運転操作ミスが突出しているわけではないことがわかります。老若男女関係なく、スピードを落とし、前方、後方、側方の安全確認をしっかり行うこと、風景や他車、歩行者に気を取られて前方の安全確認をおろそかにしないことが事故を減らしていく上で重要なことと言えます。

繰り返し交通違反を犯したり、事故を繰り返し起こしたりしている運転者はともかく、年を取ったからといって自動車の運転を諦めないでほしいものです。もし高齢のお客様から運転についての相談を受けたならば、定期的に適性診断や運転の仕方をチェックすること、同時に日々の健康チェックや老化防止に取り組みながら運転を続けることを勧めてみたいいかがでしょうか。

違反別交通事故の割合

（自動車事故対策機構、日本交通政策研究会交通事故対策シンポジウム資料より作成）



第3回初級生産管理者研修会・初級フロントマン研修会

NGPブランド強化へ研修を通じて日常業務を再点検

第3回初級生産管理者研修会・初級フロントマン研修会が2月23～25日の期間で、東京・晴海の晴海グランドホテルで開かれました。初級生産管理者研修会に26名、初級フロントマン研修会に24名が参加、皆が日常業務を再点検、基本を再確認しました。最終日には「プロジェクトNGP」を全員で鑑賞、NGPの歴史の重みに触れることもできました。

初級生産管理者研修会に参加したトリアルの丹野聡さんは「高品質であっても価格が適正でなければ不良在庫となり、売上につながりません。売れる商品であるか、売れない商品であるか、それを見極める必要があると思いました」と実践的な品質の作り込みを学びました。桃太郎部品の稲葉卓磨さんは「講義の合間、伊藤講師から普段の業務で使える知識や技術の補足的な説明を受けとても勉強になりました。自社に持ち帰り、早速実践に移します」と話していました。初級研修

会は生産ノウハウ伝授につながっています。

初級フロントマン研修会に参加したテラダパーツの磯村俊宏さんは「日頃、生産側と話す時は在庫の問い合わせやクレーム時で気が焦り、強い口調になることが多かったですが、今後はそういったときこそ相手を思いやり余裕を持って接していきます」。また山陰エコ・リサイクルの梅木貴志さんは「お客様のことを考えて仕事をするのは当然です。さらにNGPのグループ会社も生産という立場からすればお客様。このことを忘れないようにします」など、会社の仲間、NGPの仲間との絆を改めて意識する機会になりました。

「社内勉強会を

有効に利用してNGPシステムの正しい運用方法、定義等を周知徹底します」（安澤商店、安澤博文さん）、「社内コミュニケーションを増やし、お客様のニーズをフロント、営業から聞き、ほしいものをすぐに提供できるようにします」（ユアアンドアイ、新沼敏貞さん）、「研修で教わったことを生かし、自信もってお客様に商品を勧められるレベルに2カ月でなります」（國夷商店、杉本允耶さん）と、それぞれが一層のレベルアップを決意しました。



講義で業務を点検
NGPブランド作りに磨きかける



挨拶訓練、大きな声で挨拶することは
基本中の基本

オートパーツ幸城が新工場・社屋を完成、披露 関係者160名を集めて祝賀会

オートパーツ幸城（山口県宇部市）が本社敷地内に建設を進めてきた新工場・社屋が



最新のレイアウトを採用し、効率化を図った新工場

竣工、2月17日にNGP協同組合の長谷川利彦理事長をはじめとする協同組合関係者、宇部市の西山一夫副市長など日ごろお世話になっている人々を招待して、完成祝賀会を開きました。

新工場・社屋は事務所とともに使用済み自動車の処理工場、部品保管の倉庫をひとつの建屋に納め、約4300㎡の建物面積になります。工場部分では前処理工程から解体処理までをスムーズな流れとし、作業の無駄を省いた効率的なレイアウトを採用し

ました。リユース部品生産では国内向け、輸出向けにラインを分けたほか、スクラップ処理のためにニブラ1台と290tのプレス機を工場内に備えています。

部品倉庫は立体式で効率的なピッキング作業が可能、在庫点数も従来比で30～40%増となる2万点に引き上げました。同社は、内外の部品販売に力を入れることにしています。

祝賀会の翌日は、取引のあるディーラー、整備事業者のお客様を招待し、新工場・社屋の見学会を実施しました。同社の四之宮英一社長は「今後も社業に励み、NGP協同組合の仲間をはじめ、支えてきていただいた方々へ恩返しをし、同時に地域社会への貢献に努めたい」と意欲を示しました。

支店営業所出店情報

支部	会社名	所在地住所	電話番号 / FAX 番号	出店日
南関東	株式会社テラダパーツ甲府営業所	〒409-3853 山梨県中巨摩郡昭和町築地新居1598-9	055-287-7761/287-7762	24年1月5日

訃報

2月18日、株式会社パーツライン（長崎県佐世保市）の多久島秀敏（たくしま・ひでとし）取締役会長（NGP日本自動車リサイクル事業協同組合顧問、株式会社NGP元代表取締役社長）が逝去されました。享年75才。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1208 FAX: 03-5475-1209
<http://www.ngp.gr.jp>

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1200 FAX: 03-5475-1201
<http://www.ngp.co.jp>